

たまご と ペニー

イジーは、顔が熱くなりました。
ペニーを一まいわたすなんて、
できません！

ケイト・アンダーソン
(ほんとうにあった話をもとに書かれました)

このお話はアメリカ合衆国での出来事です。

8 …… 9 …… 10 !
イジーは注意深く 10 こ目のたまごをかごに入れました。
おじいちゃんはたまご 1 こにつきペニー (お金) を 1 まいをはら
いました。たまごは 10 こあったため、イジーは今日 10 セント
を手に入れます。

イジーがエサを投げると、にわとりはパタパタと羽ばたき、鳴き
声を上げました。彼女は日曜日のスカートをよごさないように気
をつけていました。にわとりには、毎日エサをあげなければなり
ません。日曜日でもです。そしてたまごを集めなければなりません。

「めんどりさん、たまごをありがと
う！」イジーは言いました。「そして
10 セントをありがとう！」

イジーはかごの中のきれいなたまご
を見ました。おじいちゃんは 10 こ全部
は必要ありません。ほとんどのたまごを
イジーの家族にくれます。でも、おじ



いちゃんは朝食にたまごを食べるのが好きでした。イジーはス
キップをしながら庭からおじいちゃんの台所に行きました。

「特別なおとけ物です！」イジーがさげびました。

「ありがとう！」おじいちゃんはにっこりして言いました。「た
まごを持って来てくれると、とてもうれしくなるよ。」

イジーはバスケットからいちばん大きなたまごを手渡しまし
た。「おじいちゃん、愛してるよ」とイジーは言いました。

おじいちゃんは、熱いフライパンのはしでたまごをたたいて、
わりました。金色のたまごの黄身がフライパンの中でジュ
ージュと音を立てています。

「さあ、びんから 10 ペニーを取っていいよ。」おじいちゃんは
イジーをだきしめました。「後で教会で会おうね！」

イジーは走って家に帰り、残りの 9 ここのたまごをかごに入れ、
10 まいのピカピカのペニーをポケットに入れました。

初等協会に行ったときも、イジーはまだペニーを持っていまし
た。ポケットに手を入れてペニーをにぎりしめながら、レッス
ンを聞いていました。

「什分の一は、わたしたちがいただいたものの 10 分の 1 を天
のお父様に返すことです」と、アヤラ姉妹は言いました。「です
から、10 セント持っていたら、什分の一として 1 セントをおさ
めるのです。」

イジーは、顔が熱くなりました。ペニーを一まいわたすだ
なんて、できません！ イジーはお金をしっかりとにぎりしめてい
ました。

「神様はどうしてわたしたちのお金が必要なんですか」と、友
達のジェイミーがたずねました。「神様はお金を使うことなん
てないのに。」

アヤラ姉妹はにっこりしました。「でも、神様は、この美しい
教会の建物などにお金がかかることを知っておられるのです
よ」と、アヤラ姉妹は言いました。「教会の必要を満たせるよう
に、什分の一をおさめることを求めておられるのです。でも、

もっと大切なのは、神様はわたしたちを祝福したいと思っ
ておられることなのです。わたしたちが什分の一をおさめるなら、
神様は天から祝福を注ぐと約束してくださっています。」

イジーはポケットに入っているペニーをさわって、おじい
ちゃんのたまごのことを考えました。

たまごはおじいちゃんのにわとりが産みましたが、おじい
ちゃんには 1 こしか取りません。おじいちゃんが毎朝
たまごをもらうのをとてもよろこんでくれるので、イジーはお
じいちゃんに一番良いものをあげたいと思いました。それに、た
まごよりもおじいちゃんの方が大好きでした。それが最も大切
なことです。

「だから」と、イジーはゆっくりと言いました。「天のお父
様が与えてくださるものを少しお返しするん
ですね。天のお父様を愛していることを
しめしたいから。」

「そのとおりよ。」アヤラ姉妹は子
供たち一人一人に什分の一のふう
とうをわたしました。

イジーは 10 このピカピカのペ
ニーを取り出し、ひざの上で数え
ました。

8 …… 9 …… 10。

体中温かい気持ちで、イジー
は一番光っているペニーを
取り出し、天のお父様にわ
たすために、ふうとうに入
れました。「ペニーをくだ
さってありがとうございます
です」と、イジーはささやきま
した。「それから、天からの
祝福に感謝します。」●

